



AMBITIOUS #008  
木村園  
お茶製造・販売

先を見えて  
未来とセリ開こう！

### 紹介企業情報/木村園

■住所 掛川市下垂木2083  
■URL [www.kimuraen.com](http://www.kimuraen.com)  
■勤務時間 8:00-17:00  
■休日 日曜日(季節による)

アンビ  
シャス的

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→お茶を製造・販売する農家や団体のもとで働く

「物心ついたときから、家業のお茶農家を継ぐと決めていました。ただ、「農家を目指すべきか?」という不安は常にありました。ぼくにどうして農家は、目指すものではなく自然となるものだったんです。自分で目標を見つけ、夢に向かって頑張る友達の姿は輝いて見えました。25歳のときに子どもが産まれ、「この道しかない」と気持ちが定まりました」

**高校卒業後のことを教えてください。**

両親と同じ仕事を漠然と続けていても、未来はない感じでいました。自分で新しいことを始める力、なにかを切り開く力が必要だと思つたんです。新しいことを学ぶため、静岡大学工業短期大学部に進学し、機械の設計などを学びました。卒業後、お茶づくりを始めました」

### ー仕事についてー

「年に3回乗用型摘採機で収穫します。4月末に一番茶(※1)、6月中旬に二番茶、9月末に四番茶を収穫します。本当は三番茶もありますが、収穫し過ぎると樹が消耗するので行いません。時期によって味が違います。新茶とも呼ばれる一番茶の品質が高いです。収穫時期以外は、施肥・防除・整枝(※2)などを行います」

**収穫後の工程を教えてください。**

「まず、蒸熱、葉打ち、粗揉など約7つの工程を経て、荒茶(※3)を作ります。荒茶を、芽の大きさごとに分別して火入れをします。部位ごとに火加減を調節し、合組(お茶をブレンド)して味を調整販売します」

「両親と同じ仕事を漠然と続けていても、未来はない感じでいました。自分で新しいことを始める力、なにかを切り開く力が必要だと思つたんです。新しいことを学ぶため、静岡大学工業短期大学部に進学し、機械の設計などを学びました。卒業後、お茶づくりを始めました」

「両親と同じ仕事を漠然と続けていても、未来はない感じでいました。自分で新しいことを始める力、なにかを切り開く力が必要だと思つたんです。新しいことを学ぶため、静岡大学工業短期大学部に進学し、機械の設計などを学びました。卒業後、お茶づくりを始めました」

「両親と同じ仕事を漠然と続けていても、未来はない感じでいました。自分で新しいことを始める力、なにかを切り開く力が必要だと思つたんです。新しいことを学ぶため、静岡大学工業短期大学部に進学し、機械の設計などを学びました。卒業後、お茶づくりを始めました」

「両親と同じ仕事を漠然と続けていても、未来はない感じでいました。自分で新しいことを始める力、なにかを切り開く力が必要だと思つたんです。新しいことを学ぶため、静岡大学工業短期大学部に進学し、機械の設計などを学びました。卒業後、お茶づくりを始めました」

「物心ついたときから、家業のお茶農家を継ぐと決意するが、本当にそれでいいのか不安を抱えた学生生活。ぼくたちの作るお茶は、昔ながらの製法で大きな変化はありません。でも、お客様の心は目新しいものに動きがち。同じお茶を販売するとしても、お客様が新鮮に感じる見せ方が大切です。難しいですが、それができたときの達成感は大きいですね」

### お茶製造・販売

### ー学生時代ー



### ーなるためにはー

「農業というしばらくで考えるより、特技をいかした異業種を学んだ方が時代に合致すると思います。その経験は農業にいかせると思いますよ。わたしも異業種とお茶のコラボを考えるのは楽しいです。百の生業と書いて百姓ですから、自然や社会に応じて、様々な生業を身につけていくことが大切だと思います。先行き不透明な現代、先を見すぎて未来を切り開く力が必要。その力は、社会へ出たときに役立ちますよ」

「現在は農業を辞め、お茶の販売の理由を教えてください。」

「今は農業を辞め、お茶の販売のためにできませんでした。家族を養うために、できるだけ多く社会との接点を作り、社会に適応していくことが大切だと思いました。そのような思いもあり、10年ほど前からネット販売に力を入れるようになりました。農業のかたわら、ネットでの小売りを伸ばしていくことで、自分の得意なことをいかして仕事ができるようになったと思います」

「お客様が『おいしかった』と、ようこんでくれるのがやりがいです。ぼくたちの作るお茶は、昔ながらの製法で大きな変化はありません。でも、お客様の心は目新しいものに動きがち。同じお茶を販売するとしても、お客様が新鮮に感じる見せ方が大切です。難しいですが、それができたときの達成感は大きいですね」

### 木村 徳彦さん

昭和47年生まれ  
静岡大学工業短期大学部(現在は廃止)卒業

・出身高校 掛川西高等学校

18歳  
↓  
23歳  
↓  
41歳

家業を継ぐと決意するが、本当にそれでいいのか不安を抱えた学生生活。  
夜間の短期大学を卒業後、お茶農家の仕事を始める。  
時代に適応しつつも、昔から変わらない、地元に根ざした生活を送る。



※1一番茶：年の最初に生育した新芽を摘み採ったお茶 ※2施肥・防除・整枝：施肥、肥料を与えること、防除、消毒などを実行する病害を防ぐこと。整枝、むだな枝を払い、樹形を整えること  
※3荒茶：茶葉が蒸熟などの工程を経て、乾燥した段階のもの。荒茶に対し、火入れ(焙煎)を行って仕上げたものが製品になる